

2012年
夏号

No.14

北九州市議会議員

大久保むが 市政レポート

平成24年7月 臨時議会

東日本大震災 ガレキ受け入れに関する補正予算を可決

平成24年7月18日、19日の2日間にわたり、臨時議会が開かれました。

災害廃棄物に係る安全性調査経費や災害廃棄物受入れ・搬送等の経費、処理関連経費などの東日本大震災における震災ガレキの受入れに関わる補正予算として、一般会計約8億5千万円、特別会計9千5百万円がそれぞれ計上されました。

さらに、市からは、宮城県石巻市からのガレキ受入れに関する手順、運搬体制の説明などが行われました。

代表質疑では、市に対してガレキ受入れのスケジュール、運搬ルートなどの細やかな説明を求めました。これまで、市はガレキの運搬方法について、フレコンバックという袋状のものに詰めて輸送すると説明してきましたが、今回、上部が取り外せる特殊な20フィートコンテナを利用することにより、より安全性が向上し、輸送の効率化等に伴うコストの削減も図られるとの説明もありました。

また、コンテナ毎にタグをつける(いわゆるトレーサビリティ)ことによる安全確保の徹底や、コンテナ1つに対して放射線測定機で4箇所の計測を義務づけ、その結果についてはインターネットなどを通して迅速に公表するとの事です。

一方、これまで住民説明会や市民説明会などを計600回、2万4千名に対して行ってきたことも説明されました。

広域処理の必要性については、「宮城県内で処理が可能であり、広域処理の必要性がない」とする旨の報道が

一部で行われたことに対して、議員から説明を求めました。これに対して市は、宮城県議会議長が本市を訪れた際に「一刻も早いガレキの処理を行うためには広域処理を求めていく方針について何ら変わらない」と宮城県側から再要請があったことを説明しました。

心配される風評被害対策については、6月の定例会でも私たちの会派から、本市の漁業・農業に対して万全の対策を期するよう要望を行いました。今議会でも各会派からそれぞれ質問・意見が出され、市からは、風評被害対策は国が責任を持って行なうべきものであるが、本市としても、「風評被害防止対策室」を設置し、「風評被害防止ローラー作戦」の実施や「風評被害防止ネットワーク」の構築、農水産物の放射能濃度の測定を行う「モニタリング検査」の実施をはじめ、地産地消を推進するため『(仮称)北九州「海の幸」「山の幸」を愛する会』を発足させるなど、国任せにせず、市が主体性を持って万全を期してその対策に取り組む方針が示されました。



仮置き場に高く積まれた震災ガレキ(石巻市/平成24年4月視察時に撮影)

「身の丈の政治」を考える 新球技場整備事業について

去る7月9日に行われた総務財政委員会において、これまで私の市政レポートでも何度か取り上げて参りました「新球技場整備事業」について、整備方針(案)が示されました。これは、平成22年に策定された新球技場の基本方針を踏まえ、平成23年12月から平成24年5月まで全3回に亘り行われた「新スタジアムイメージ検討会」での意見やアイデアを取りまとめたものです。会員は九州大学の竹下輝和教授を座長とする合計12名のメンバーで構成されています。



＜整備方針＞

- ①建設候補地：小倉北区浅野3丁目(国際会議場の北側)
- ②施設概要：球技専用スタジアム、約2万人収容
- ③概算建設費：約100億円(スタジアム本体建設費) など

＜コンセプト＞

【その1】みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム

ランドマークとして魅力があり、北九州らしさなどを考えたデザインを採用、街のにぎわいに向け、周辺施設との連携 など。

【その2】環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム

再生エネルギーの最大限活用・導入、省エネ、省資源対応、さらに環境技術のシンボルとしてPRできるような施設 など。

【その3】夢と感動を生みだす“ダイナミック”スタジアム

スタンドとフィールドの近さ、選手と観客の一体感の演出、快適な観戦環境と多様な観戦スタイル、高いホスピタリティの確保 など。

＜事業手法＞

PPP手法、※その内「PFI事業の(BTO方式)」を採用しています。この手法はつまり、「委託もしくは指定管理を受けた業者」が施設建設のための資金調達を行います。その資金をもとに施設を建設しますが、その所有権は市に移転します。その上で「委託もしくは指定管理を受けた業者」が契約期間に亘り維持管理や運営を行う、という方式です。本市では既に市立思永中学校整備事業や、黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備事業などで導入されています。

震災廃棄物の受入れに伴う「風評被害防止対策室」を設置

6月21日、北九州市は「風評被害防止対策室」を設置しました。

「風評被害防止対策室」は、市民や事業者等からの風評被害に関する相談をワンストップで受け止め、風評被害防止に向けて迅速かつ効果的な対応を取る組織です。

今後、

①「風評被害防止ローラー作戦」の実施

関係団体、事業者等に対して訪問を行い、正確な情報をきめ細かく説明していく。

②「風評被害防止ネットワーク(メーリングリスト)」の構築

安全性に関する情報や風評被害が発生した場合、正しい情報を迅速に発信。

③(仮称)『北九州「海の幸」「山の幸」を愛する会』の発足

地産地消をさらに盛り上げ、地元農林水産業者が風評被害に負けないよう力強く支える、市民団体・経

済団体・行政等からなる運動団体を発足。

これらに加えて、生産者の要請により農林水産物の放射線濃度の測定、インターネット上などの風評被害の恐れのある書き込みなどを調査し対応を行う、など風評被害を未然に防止する取組みを行うこととしています。

風評被害は、まず“起こさない”ことが何より重要です。市は災害廃棄物処理に関する安全性を理解してもらえるように、正確でわかりやすい情報の発信・周知を行わなければなりません。仮に風評被害が発生した場合には、「風評被害対策室」を中心に全力で対策に取組み、事態終息に向けて迅速な対応をすることが重要です。

私も議会からではありますが、この「風評被害防止対策室」の取組みについて全力でバックアップを行い、風評や根も葉もない噂などによってもたらされる被害を防ぐべく行動して参ります。

さて前置きが長くなりましたが、施設を建設する上で、コンセプトは大変重要だと思います。これは総務財政委員会の中でも指摘したのですが、スタジアムにとって、一番重要なことは何なのでしょう？ここで少し立ち止まって考えなければいけません。

現在のコンセプトでは“にぎわいを生むスタジアム”が最初にきていますが、そもそもスタジアムは何のために造るのでしょうか？

もともと、本市において新球技場建設はハイレベルな試合・大会を身近で観戦することができることを目的とし、「見るスポーツ」の拠点としてこのスタジアムを整備することを打ち出していたと記憶しています。

いつの間にかこの優先順位が変わってしまい、「見る」という視点がコンセプトの3番目に下がってしまいました。

快適で楽しめる観戦環境を整えば、結果として多くの観客が訪れる、というのが本来あるべき姿であると考えます。

「にぎわい」は、その結果としてもたらされるものです。今回の新球技場建設が直接的に「にぎわい」を作り出すことを主目的としいるような現在の方針については、間違っているのではないかと指摘しました。

このコンセプトが入れ替わることで施設のあり方や設

備など基本的なものが大きく変わってくると考えます。

そして「にぎわい」を作り出すために、無理やり施設の機能を付け加えていくことになるのであれば、そのツケは一体だれが払うのでしょうか。

例えば観客席の在り方ひとつにしても考えなければなりません。今、2万席なのか2万5千席なのかという議論よりも、本市で開催可能な規模のスタジアムがどのぐらいなのかを冷静に判断すべきです。その上で、将来観客が増えた時に対応できるよう増席可能な構造で建設し、観客席を増やすか否かの判断は次世代に委ねるべきであると思います。

それこそがいま私たちができる、将来に負担を残さない選択肢ではないのでしょうか。

あまりにも作り手の思いが強くなりすぎて、それを利用する側の立場に立っていないのではないのか。今一度冷静になって、本来の目的が何であったのか問い直すことが重要であると考えます。

スタジアム建設に対する目的を見つめ直し、何のために、誰のためにこれを作ろうとしているのか、どんな施設がふさわしいのか。今のそして未来の北九州市を見据え、身の丈に合った姿を議論していかなくてははいけません。

平成24年 4・5・6月の活動記録

4月

1日 九州国際大学入学式
4日 北九州市立大学入学式
9日 総務財政委員会
党政令指定都市勉強会(熊本)
10日 会派広報会議
12日 北橋市長と音楽を愉しむ会
13日 市議会会派団会議
15日 的場池弓道場開設記念弓道大会
国政・県政・市政報告会
18日 平成24年度北九州市制50周年
記念事業実行委員会(傍聴)
北九州市コールセンター視察
20日 唐山外国語学校北九州市訪問で挨拶
22日 北九州市立大学同窓会
「平和の絆」リレーウォーク
ギラヴァンツ北九州観戦
23日 八幡西区議員協議会 文化交流拠点視察
NPO法人Kid's Work 理事会
24~26日 宮城県仙台市・石巻市 視察
27日 市議会会派団会議 会派学習会
党県連 団体交流委員会
28日 メーデー
北筑野球部後援会総会

5月

6日 党県連青年国民運動委員会
8~9日 地方自治体議員フォーラム全国研修会
(東京)
11日 総務財政委員会
13日 党総支部常任幹事会
15日 NPO法人Kid's Work 会議
16~18日 総務財政委員会行政視察
18日 日本基幹産業労働組合連合会福岡県本部
政策制度フォーラム
19日 陣原市民センター 10周年
20日 市議会 議会報告会
ギラヴァンツ北九州観戦
21日 いとうづの森公園 視察
22日 行財政改革有識者会議(傍聴)
23日 総務財政委員会 黒崎文化交流拠点視察
市議会 議会報告会
25日 市議会会派団会議
26日 党県連団体交流委員会
党県連政治スクール開校式
28日 藤田ポンプ場完成式典
29日 八幡西区議員団会議
新スタジアムイメージ検討会(傍聴)
30日 健康診断

6月

1日 市民活動団体等による協働事業
公開プレゼンテーション(傍聴)
2日 地方議員団勉強会
4日 市議会政策立案支援事業講演会
7日 グラウンドゴルフ大会手伝い
8日 市議会会派団会議
がれき受け入れに関する地元説明会
(八幡西区)
9日 ギラヴァンツ北九州観戦
10日 ギラヴァンツ北九州応援フットサル大会
12日 市議会会派団会議
13日 6月定例会開会
会派政策審議会会議
14日 本会議
15日 本会議
16日 黒崎100円商店街
連合北九州集会
17日 北九州市民茶会
18日 総務財政委員会
19日 総務財政委員会
20日 本会議(6月議会閉会)
23日 党県連政策調査会
党県連政治スクール
九州国際大学八幡支部同窓会
24日 党総支部選対委員会
党総支部常任幹事会
24~27日 台湾 高雄市・台北市友好議員団訪問
29日 党県連団体交流委員会

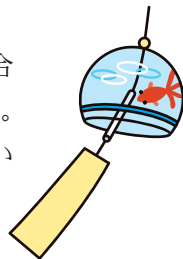
電力不足が心配されています。節電にご協力を!!

今夏の電力不足が深刻なことは、マスコミ等を通じて既にご周知のことと思われます。電力不足を補うために、火力発電所のフル稼働や廃止が決まっている発電所の再稼働、点検の先延ばしなどで対処しているのが現状です。

それでも季節柄、暑さは避けられません。電力を多く使うエアコンについていっ手が伸びてしまいます。しかし、皆様一人ひとりのちょっとした努力の積み重ねで多くの電力が節約できます。“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげる。エアコンの設定温度をこまめに調整する。必要のないコンセントを抜く。

「自分一人がしなくても」ではなく、皆で少しずつ力を合わせ、皆の電力を大切に使うこの夏を乗り越えましょう。

くれぐれも熱中症には気をつけていただき、無理のない範囲で節電しましょう。



今夏の需給見通し

<節電にご協力いただきたい期間>

7月2日(月)から9月7日(金)の平日(お盆期間を除く)

一昨年並みの猛暑となった場合、昨年並みの節電を見込んだとしても、7月～9月上旬にかけて、供給力が不足する見通しです。

(単位: 万kw)

	7月	8月	9月上旬
時間最大電力	1,634	1,634	1,583
供給力	1,560	1,574	1,510

(※九州電力株式会社 今夏の需給見通しおよび節電へのご協力をお願いについて より抜粋)

《節電のお願い(九州電力ホームページから抜粋)》

■7月2日(月)から9月7日(金)の平日(8月13日～15日は除く)の9時から20時について「昨夏並みまたはそれ以上」の可能な範囲での節電をお願い致します。

■このうち13時から17時(ピーク時間帯)については「昨夏からさらに3%程度以上(昨夏の節電実績7%程度を含めると、一昨年から10%程度以上)」の節電にご協力をお願いいたします。

また、上記期間・時間帯以外につきましても、皆さまの生活に支障のない範囲での節電に、引き続きご協力をお願いいたします。

☑「緊急時の節電ご協力お願いメール」への登録のお願い

電力需給状況が「大変厳しい」(使用率※が97%を超える場合)見通しとなった場合、お客様の携帯電話に「緊急時節電のご協力お願いメール」を配信させていただきます。

(※使用率: 当日の予想最大電力/当日の最大供給力×100)

① 節電いただきたい時間の直前(約1時間前)にメールでお知らせ致します。

② メールが届きましたら、不要不急の電気のご使用を抑制いただくなど、節電へのご協力をお願い致します。

(エアコンの控えすぎによる熱中症などに気をつけて、無理のない範囲での節電をお願いします。)

メール配信には、携帯メールアドレスの登録が必要です。

携帯電話版ホームページ⇒ <http://kyuden.jp/>

パソコン版ホームページ⇒ <http://www.kyuden.co.jp>



北九州市議会議員
大久保むが
プロフィール

生年月日 昭和50年11月22日 現在36歳

経歴

枝光小学校・枝光北中学校(現枝光台中学校)・
県立北筑高等学校を卒業
平成10年 九州国際大学 国際商学部 卒業
平成12年 北橋健治衆議院議員秘書
平成18年 北九州市立大学 法学研究科(大学院)入学
平成19年 大久保勉参議院議員秘書
平成20年 北九州市立大学 法学研究科 卒業

現在 民主党福岡県第九区総支部 常任幹事
ボランティア団体 KID's work スタッフ

■大久保むが事務所

〒807-0831 北九州市八幡西区則松2-9-2
Tel 093-863-5530 Fax 093-863-5531
<http://www.mugamuga.net/>
E-mail yahatanishi@mugamuga.net